

茨城県

# 育成会だより

第 142 号

発行日 令和2年12月10日  
 発行 一般社団法人  
 茨城県手をつなぐ育成会  
 編集 広報委員会  
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918  
 茨城県総合福祉会館内  
 ☎ 029-243-3838  
 FAX 029-243-3854  
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>  
 e-mail [iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp](mailto:iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp)



障がい者週間クリスマス会



地域交流事業餅つき体験



療育キャンプ (千葉県鴨川)



コロナ禍での種まき



農業収穫体験 (いちご狩り)

(連絡先) 結城市小田林1-166-1

結城市障害者福祉センター

電話: 0266-33-01700

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

※随時、利用者を募集しておりますのでお気軽にご相談下さい。

社会福祉法人結城市社会福祉協議会

結城市社会福祉協議会多機能型事業所

施設長 望月 悟

# 第2回 “リアル” 理事会を開催 —いよいよ コロナ禍を乗り越えよう！！

土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征

10月13日（水）10時、水戸市駅前ホテルレイクビュー水戸で、第2回理事会が「リアル会議」（書面による会議ではなく、実際に担当者が出席する）として開催され、20名の理事・監事が、積極的に意見を交わしました。

それまで、5月下旬に第1回理事会、6月中旬に定時総会が、それぞれ書面で行われて、令和元年事業・決算報告および令和2年事業計画・予算案等が承認されていました。そして、今回、ようやく理事・監事自身が出席して第2回理事会が開催された次第です。会議室は、ソーシャルディスタンスを取るため、通常の2倍以上の広さでした。

冒頭の矢野会長のあいさつ—「ただいま、各委員から口頭・文書で、協議事項・報告事項について、発表があった。コロナ禍の中で、上期の活動はほとんど中止となってしまったが、下期は、しっかりと態勢を立て直し、各委員会の果たすべき活動をきちんと実施していきたい。コロナ禍をしっかりと乗り越えていこうではありませんか。」

議題の〈協議事項〉として、次の案件が検討され、出席者の賛同で承認されました。

## (1) 令和2年度の事業計画の見直しについて：

## (2) 各委員会の活動状況について：

- ・今年度活動中止の委員会が多く、一部委員会で、1月以降令和3年度の計画を検討する。また、自宅での研修によるレポート研修をする委員会もある。

## (3) 「茨城大会」中止に伴う県会長表彰について：

- ・令和2年度の表彰者の選考は、3年度に見送る。

次の〈報告事項〉として、以下の事項が報告された。

- ①令和3年度茨城県社会福祉に関する要望について
- ②「令和2年7月豪雨」に係る災害義援金等について  
・この号の4ページに関連記事が載っています。
- ③「心のとも運動」の取組み状況について
- ④特別支援学校保護者との交流事業について



ソーシャルディスタンスをとった理事会会場

## ◎新旧事務局長の歓送迎会をおこなう

理事会終了後、同ホテル別室で、半年間延び延びになっていた新旧事務局長の歓送迎会が開催されました。これは、3月末で5年間にわたる事務局長を退任された小森廣之氏を慰労し、4月から新事務局長として活動を開始した村田裕二氏を激励するためのものです。小森さんは知人の経営する福祉団体に元気に働いており、趣味の一つマラソンも継続中だそうです。



## 新しい「あすなろの郷」に寄せる期待

県育成会副会長 中村正子

あすなろの郷は、皆さんご存知のとおり、重度の知的障害のある方が入所している県立の障害者施設ですが、建物の老朽化に対処するため、県では建て替え整備計画を2019年10月に取りまとめました。

整備調整会議には、県育成会を代表する形で私も出席し、新しくなるあすなろの郷が入所者支援のみならず、在宅障害者の日常生活支援や相談、病院の外来診療など、在宅障害者にとって今まで以上に充実し、公平で開かれた施設となるよう、様々な意見を述べさせていただきました。

整備計画では、県と民間事業者の役割分担の考えのもと、県は民間では対応困難な重度障害者の受入れや病院運営を引き続き担い、それ以外の部分は新たに民間に委ねることとされました。

また、在宅障害者からの要望を踏まえ「あすなろの郷病院での在宅障害者の診療の充実、短期入所の拡充」、「24時間緊急ステイ」、「在宅重度待機者の受入れ」への対応が県の役割として盛り込まれており、早急な建て替え整備が望まれます。

しかし、現在、あすなろの郷の保護者の民間導入への不安を受けて、この計画が停止していると聞きました。新しいあすなろの郷の整備を願う私たち在宅障害者の保護者にとって、こうした状況は大変残念です。

新しいあすなろの郷は、在宅障害者を含めた県の重度障害者支援の中核施設となることから、在宅障害者や家族の期待もしっかり考えていただき、早期に建て替え整備を再開して欲しいと考えています。

## 厳しくも楽しい活動の思い出

元 広報委員会 青木 礼子

**県育成会の広報委員として活動してきました。** 昨年息子が病気のため急逝しましたので、地元育成会（県あすなろの郷育成会）は退会し、県育成会には賛助会員として引き続き参加してきました。

このたび諸般の事情により、県育成会を退会することになりました。育成会の皆様、広報委員の皆様、長らくお世話になりありがとうございました。

息子は東京世田谷区に生まれ、小学1年生の時に夫の転勤により水戸に転居しました。そして、障がい児を取り巻く環境の違いを痛感し、障がい者を見る世間の格差を感じました。

そのような時に県育成会の活動を知り、参加させていただきました。そして、育成会の皆様と、全国大会・関ブロ・県大会で毎年のようにお会いできるのが楽しみでした。

「県育成会だより」編集に参加させていただき、広報委員会での厳しくも楽しい活動を通して、地域の皆様と様々な交流ができたことが、一番の思い出です。

**これからも、地域に目を向けて何かお手伝いできたらと考えております。ありがとうございました。**

## 7月豪雨への災害支援義援金集まる 全育連の新「支援基金」がスタート

土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征

本誌2ページに、10月13日の第2回理事会の記事が載っておりますが、その報告事項の一つとして、「令和2年7月豪雨」に係る災害支援義援金を取りあげられております。

全育連（全国手をつなぐ育成会連合会）の「お願い」に基づき、県育成会から単位育成会に協力の要請を行ないました。11月25日現在で、14育成会から158,000円の義援金が寄せられました。全国の育成会から寄せられた義援金は、激甚災害の指定を受けた箇所へ全育連から配布されることになっています。各地域からのご協力・ご支援に感謝いたします。

また、全育連は、上に述べた「災害義援金」とは別に、従来からあった基金規定を改正した新しい「災害等活動支援基金規定」に基づき、同基金への募金も開始しました。これには、11月25日現在4団体から102,200円が寄せられております。この基金は、今回の災害支援活動に限らず、今後の大規模自然災害や新型コロナウイルス感染症対策などにおける支援活動の準備資金として活用しようというもので、受付期間の設定はありません。すなわち、年間いつでも支援基金を受付けしようとするものです。各単位育成会のご理解と温かいご支援をお願いいたします。

## 土浦育成会の渡部伸氏講演会が“流れる” コロナ「クラスター」が発生！

土浦市手をつなぐ育成会が楽しみに準備していた、11月27日（金）予定の渡部伸氏（「親なきあと」相談室主宰）による講演会が、土浦市の11月16日・17日に発生したクラスター（コロナ感染集団）で、急遽、中止のやむなきに至りました。

新聞報道や口コミによる情報から、参加者たちの安全がむずかしい状況だと判断して、会長渡辺が18日夜講師渡部先生に講演会中止依頼のメールを送り、翌朝、「講演会中止の件了解しました。」との返事がメールで届きました。

この結果、土浦育成会としては、「親なきあと」について研修を積む絶好の機会を今回失ってしまいましたが、渡部先生は、メールの最後に「また感染状況が落ち着きましたら、お声がけいただければありがたいです」と述べておられますので、その機会が来春にでも訪れるのではないかと、土浦育成会は期待しております。

講師が今回の講演会に用意されたレジメのマトメは、こうです。

- ☺ 社会と接点を持つ＝子どものことを話せる相手を見つけておく
- ☺ 状況は良くなっている、気軽に構える ☺ 最低限の準備はしておく
- ☺ いざとなったら何とかなる！

また、講演の中で先生が触れたであろう書籍名を、参考のため記しますので、ぜひご一読を。

①障害のある子の「親なきあと」（主婦の友社）②障害のある子の住まいと暮らし（同）③まんがと図解でわかる 障害のある子の将来のお金と生活（自由国民社）

最後に、会長渡辺がこの8月に、お忙しい渡部先生にお送りした講演依頼の手紙に対する、先生の返信の中にこうありました。「私としては、出来る限り多くの方々にお会いして、「親なきあと」の悩みを持つ親御さんに、少しでも前向きな気持ちになっていただきたいと思います…」

年明けの1月に、私は81歳になります。お互い、「親なきあと」の準備を、ゆっくりと、しかし少々急いでやろうではありませんか。（11月20日記す。土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征）

# 一般社団法人 茨城県手をつなぐ育成会 委員会名簿

(令和2・3年度)

委員会	氏名	所属	備考
総務	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	委員長
	矢野 清	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	
	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	
	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	
	大高 滋	古河市心身障害児(者)父母の会	
	清水 学	本人活動委員会	
研修	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	委員長
	吉川 佳代子	潮来市障がい者児親の会	
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	
	後藤 真紀	つくば市手をつなぐ育成会	
	菅谷 久美子	結城市心身障害児(者)父母の会	
	高安 米子	ひたちなか市障害児者育成会	
	堀江 由枝	水戸手をつなぐ育成会	
	櫻井 詩子	土浦市手をつなぐ育成会	
広報	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	委員長
	杉山 正美	小美玉市心身障がい児者父母の会	
	渡辺 征	土浦市手をつなぐ育成会	
	大島 みのる	桜川市手をつなぐ育成会	
	青木 礼子	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	渡邊 一男	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	
権利擁護	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	委員長
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	
	関 多恵子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
根本 順子	水戸手をつなぐ育成会		
地域交流	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	委員長
	鈴木 金一郎	北茨城市手をつなぐ育成会	
	露久保 真依子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	大久保 淑子	東海村心身障がい児者親の会	
	西口 規子	笠間市手をつなぐ育成会	
	田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	
	根目沢 浩幸	かすみがうら市手をつなぐ育成会	
	大高 滋	古河市心身障害児(者)父母の会	
	伏見 千夏	小美玉市心身障がい児者父母の会	
本人活動	清水 学	本人活動委員会	委員長
	伊藤 広也	本人活動委員会	
	深谷 知史	本人活動委員会	
	佐藤 宗智	本人活動委員会	
	真行寺 浩和	本人活動委員会	
	大竹 正美	本人活動委員会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	支援者
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	支援者
	鈴木 胖	北茨城市手をつなぐ育成会	支援者
	中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	支援者
	根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	支援者
	大島 みのる	桜川市手をつなぐ育成会	支援者





# ながいの見え方

第3回



## 言葉にならない思い

日立市手をつなぐ親の会 永井 立雄

アメリカの大統領選挙がかつてない様相を呈しています（10月末現在）。両候補の醜い罵り合いには少々うんざりしています。アメリカの有権者は誰を選ぶのでしょうか。

ところで、「選挙」は私たちの意思を政治に反映させるための手続きなので、「投票」は障害のある人たちにとっても大切な権利です。

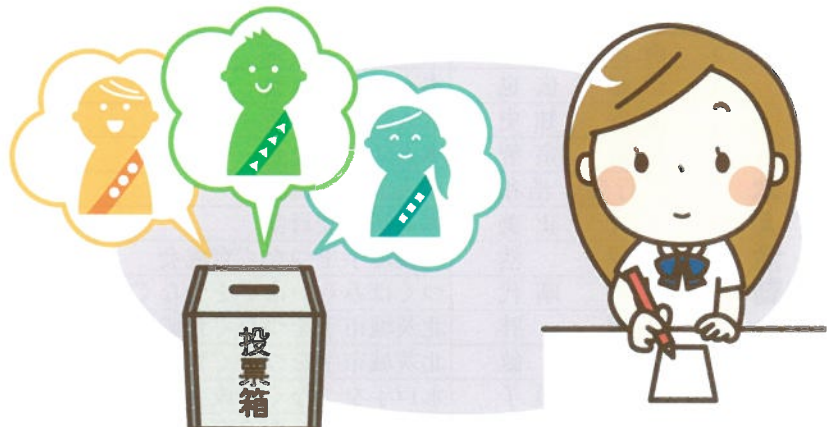
障害のある児童生徒たちが通う特別支援学校でも、児童会や生徒会の役員を選ぶ選挙が行われています。選挙についての学習は特に高等部の生徒にとっては社会へ出ていくための大切な学習なので、先生たちも力を入れています。選挙権の年齢が18歳に引き下げられてからは在学中の生徒が一般の選挙で投票することも考えられます。選挙が高校生にとって身近なものになりました。

これは、県内のある特別支援学校の高等部の先生から伺った話です。生徒会役員改選の時期になると選挙についての学習が始まります。選挙ポスターが掲示され、選挙運動や立ち合い演説会も行われます。そして投票日。その学校では市役所から本物の投票箱や記載台などを借りてきて、とてもリアルな投票所を準備します。投票の際には一人一人の実態に合わせた支援がおこなわれます。支援にあたる先生は、文字の書けない生徒、意思の表出が難しい生徒に対しては、写真カードを使って候補者を選択する、サインや視線などで意思を確認するなど、あらゆる手段でその生徒の投票を支援します。

生徒の投票行動を分析してみると、彼らは意外なほどしっかりした視点で候補者を選択しているのだそうです。お話が上手で普段目立っている候補よりも、あまり目立たないけれどいつも友達に優しくしている候補が選ばれる・・・なんてことがよくあるそうです。表現の苦手な障害の重い生徒でもきちんと支援をすればしっかりと候補者を選ぶことができるのです。言葉を発しない重い障害のある生徒たちも、周りの人たち（先生やクラスメイト）のことをしっかり見ているのだそうです。

知的障害のある人の場合、表現が苦手な日常の生活の場面でも自分の意思がなかなか伝えられないということがよくあります。でも支援者が丁寧に聞き取ったり、表現を支援したりすることでお互いのコミュニケーションが取れるということがこの選挙の話からよくわかります。

最近、新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの会議や授業が話題になっています。ひょっとするとオンラインによる投票が行われる日がすぐにやってくるのかもしれませんが、障害者にもやさしいネット環境の普及が望まれます。



# 特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

## 県立つくば特別支援学校（つくば市）

本校は、茨城県南部、研究学園都市で有名なつくば市に所在しています。校舎は、本校のスクールカラーの由来でもある「紫峰」の異名を持つ筑波山を北に臨み、緑豊かな環境に建っています。

平成19年度に、知的障害教育部門（A部門）と肢体不自由教育部門（B部門）の2つの部門を併置する、県内初の知肢併設型特別支援学校として開校し、令和2年度で14年目を迎えました。

両部門合わせて346名（令和2年5月1日現在）の児童生徒が在籍し、A部門はつくば市（旧荃崎町と旧筑波町を除く）から、B部門はつくば市、土浦市、石岡市、稲敷市、かすみがうら市、牛久市、龍ヶ崎市、阿見町、利根町、河内町、美浦村からと、広範囲の通学区から登校しています。

令和2年度は、「笑顔と挑戦」を学校の合言葉に掲げました。新型コロナウイルス感染症の影響により、新学期は臨時休業からのスタートとなってしまいましたが、奇しくも合言葉どおり、児童生徒、教職員ともに様々な「挑戦」を試みることとなりました。オンラインや動画配信による授業、三密解消の視点と感染症対策を盛り込んだ学校生活の見直し、リモートでの居住地校交流、ゲストティーチャーや地域資源を活かした授業づくりなどです。

児童生徒にとっても教職員にとっても、初めての試みに戸惑うこともありましたが、「笑顔」で「挑戦」することを忘れずに歩んできました。A部門高等部木工班の新製品「足踏み式オートディスペンサー」は、その挑戦の成果として誕生し、現在、企業や公共施設で感染症対策に役立てられています。

今後も本校は、社会の様々な変化の中で笑顔を絶やさず挑戦し続け、しなやかに対応していける児童生徒の育成を目指してまいります。



校舎外観



B部門 中学部 自立活動



B部門 小学部 I 課程  
総合的な学習の時間



A部門 高等部 作業学習  
新製品「足踏み式オートディスペンサー」



A部門 小学部 2年  
自立活動



# 令和2年度行事予定

月	日 (曜日)	行事予定
3月	10日 (水)	「育成会だより」143号 発行
	未定	令和2年度第3回理事会 (小研修室 A)

## 「新型コロナに関する条例が施行されました」

茨城県では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と社会経済活動の両立に取り組むため、10月2日に「新型コロナ経済両立条例」が施行されました。(令和5年10月まで)

この条例では、「いばらきアマビエちゃんの登録義務」、「行動調査や検査への協力義務」、「差別的な取扱いの禁止」などが規定されています。

今後は、新型コロナとの共生を前提とした新しい社会づくりが求められています。私たちも、一人ひとりが条例の目的を正しく理解して、新しい生活様式を取り入れた日常生活を心がけましょう。

いばらき  
アマビエちゃんに  
登録しましょう!



### いばらきアマビエちゃんとは?

「いばらきアマビエちゃん」は新型コロナウイルス感染者が発生した際に、感染音と同じ日に同じ施設を利用していた方に対して、県から注意喚起のメールを送付するシステムです。いばらきアマビエちゃん登録店は県のガイドラインに沿って感染防止対策に取り組んでいます。お出かけの際は、いばらきアマビエちゃん登録店を利用しましょう。

※茨城県ホームページで、登録している店舗・施設の情報を一覧で掲載しています。(公表を希望する店舗・施設のみ公表しております。)

厚生労働省の施設確認アプリ(COCOA)と併用することでより感染拡大防止の効果が期待できます。

### ご利用方法

店舗を訪問する都度、二次元コードの読み取りが必要になります。

STEP 01

店舗・イベントなどを訪れる前に事前にQRコードを読み取り登録完了(登録禁止対象等確認)に必要の二次元コードを読み取る

STEP 02

読み取ったURLにアクセスして読み取れる「登録完了」を確認

FINISH!

表示されるメール通知から必要のメールを受信すると登録完了

登録完了後は、店舗を訪問する都度、二次元コードを読み取り、メール通知を受信します。

新型コロナウイルスに感染した方が発生した店舗から、その発生音が記録された場所を割り出しに防犯カメラに対してメールで注意喚起が行われます。

### 注意事項

- 「いばらきアマビエちゃん」からのメールは「@ibarakicoronanext.jp」よりお送りいたします。
- システム登録の際に「@ibarakicoronanext.jp」からのメールを受信できるように、ご自身の携帯電話、スマートフォン/パソコンのメール受信設定をご確認ください。メールが届かない場合は受信設定により、注意喚起メールを受信できない状態になっている可能性があります。
- 登録された情報については、事業目的のみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

## 10月2日、「茨城県新型コロナウイルス感染症の発生予防又はまん延の防止と社会経済活動との両立を図るための措置を定める条例」が施行されました。

条例のPOINT(3つの柱)	事業者・県民の皆様へお願い
①いばらきアマビエちゃんの登録義務化 (義務対象業種及び利用者)	事業者の皆様 義務対象の施設・店舗等は、登録と運営費の表示をお願いします。 県民の皆様 利用日ごと、施設・店舗等ごとに利用登録をお願いします。
②県が行う行動調査・幅広い検査への協力義務化	県民の皆様 県が行う行動調査や、感染拡大地域での集中検査などの幅広い検査への協力ををお願いします。
③不当な差別的取扱いの禁止	県民の皆様 感染者やその家族及び医療従事者等への不当な差別的取扱いを禁止します。

いばらきアマビエちゃんから通知を受け取った方には、県のコールセンター(029-301-3200)にお問い合わせいただき、お話を伺いたううえで、検査などをご案内いたします。

茨城県 産業戦略部中小企業課 お問い合わせ TEL.029-301-5472

## 編集後記

・青木礼子さんが広報委員を離れることになりました。3ページに退任のごあいさつがあります。広報委員としては私と同期で、10年も務めたことになるのでしょうか。まじめで、誠意あふれる仕事振りが、印象に残ります。・5ページの委員会名簿に常陸大宮市の露久保真依子さんが掲載されていますが、彼女は、実は、この「育成会だより」第142号から、兼務で広報委員としても活動を始めました。この1年、大島みのも(桜川市)・渡邊一男(石岡市)に続く3人目の新しい風です。ご期待ください。・4ページに、土浦育成会が11月27日に予定していた渡部伸氏の講演会が、土浦でのクラスター(集団感染)のアオリで中止となってしまった経緯を記しました。準備の段階でのメールのやり取りの中で、講師渡部先生の温かい人柄に触れることができました。

・いまに見る、コロナ! 近々、お前を押さえつけてやるゾ! (渡辺 征)